

平成 27 年度 九州ブロッククラブネットワークアクション 2015 開催報告

日時：[第1日目] 平成 27 年 11 月 7 日（土） 13:00～17:20

[第2日目] 平成 27 年 11 月 8 日（日） 9:15～12:30

会場：ホルトホール大分

内容：テーマ『自立への鼓動！ネットワークの必要性と活用』

[1日目]

①開会行事

②パネルディスカッション

「クラブ運営の現状と課題～みんなに話そう失敗談～」

③分科会

「クラブ運営の現状と課題～みんなに話そう失敗談～」

※クラブの設立年数別の分科会

④日本体育協会からの情報提供

[2日目]

①グループディスカッション

「地域にあるもの再発見！事業推進のヒント！」

※クラブの活動エリア人口別のグループ

②全体会 「みんなに話してみよう！こんな話」

③閉会行事



【概要】

○九州ブロックでは、『自立への鼓動！ネットワークの必要性と活用』をメインテーマとし、クラブが抱える諸問題について徹底討論により問題解決への糸口を探り、クラブ運営に関する情報を共有するとともに互いの情報交換を深めることを目的とし、プログラム内容を検討した。

○1日目のプログラムでは、「クラブの現状と課題～みんなに話そう失敗談～」をテーマに、パネルディスカッション形式により、「財政」「行政との関係」「地域との関係」「プログラム」の視点から失敗談を含めた発表で問題提起し、ディスカッションの出発点とした。分科会では、パネルディスカッションで問題提起された内容を含め、クラブ運営の現状と課題について徹底討論し、問題解決への糸口を探り、「持続可能なクラブ運営へ」の視点で参加者同士の意見交換を行うことを狙いとした。2日目のプログラムでは、「地域にあるもの再発見！事業推進のヒント！」をテーマに、地域の総合型クラブとしての活動の現状と課題から地域資源を活かした事業をどのように推進していくかを参加者同士で考え、事業に関する情報の共有を図っていくことを狙いとした。全体会では、「みんなに話して見よう、こんな話」をテーマに、「今までに発言がなかった内容」、「是非これだけは聞きたい内容」を自由な発言形式で行い、クラブで抱えている諸問題の解消を図るためのヒントを得て、クラブの質的な充実を図れるよう情報を共有することを狙いとした。

[1日目]

【パネルディスカッション「クラブの現状と課題～みんなに話そう、失敗談～」について】

クラブを運営する中での失敗談とその解決策について、「財政」「行政との関係」「地域との関係」「プログラム」の4つ視点から問題提起していただき、参加者がクラブで抱える諸問題について、解決への糸口とした。

「財政」：NPO法人 かわそえスポーツクラブ

「行政との関係」：福津ドリームスポーツネットワーク

「地域との関係」：一般社団法人 串間スポーツクラブ

「プログラム」：NPO法人 始良スポーツクラブ

特にクラブ運営の中で、失敗したことから学んだポイントを中心とした発表に「同じような失敗があった」「具体的にどんな対応をしたのか知りたい」等の意見が寄せられた。

財政に関する発表では、佐賀県のかわそえスポーツクラブより、「toto 助成の申請失敗による財政難の解消」について、体験談を通してクラブ財源確保に向けた具体的な取り組み内容を紹介され、助成金だけに期待せずクラブ内でも収入を増やし、支出を減らす努力の必要性が話された。また、プログラムについての発表では、鹿児島県の始良スポーツクラブより、「小学生対象のイベントの失敗例」の体験談があり、夏休みに実施したイベントへの応募者が6名であった原因と教訓として、「企画内容が完全に大人目線」から「常に参加者目線で考えよう」、「チラシの情報量が薄すぎる」から「伝わらないと意味がない」という教訓を得たという内容があった。

今回、サブテーマが「仲間に話そう、失敗談」であったため、失敗した内容を中心に発表があり、各クラブが持っている課題に対する問題解決へのヒントが多く提供された。

失敗から学ぶことで次に繋げていくことの重要性を参加クラブで共通理解ができたと思われる。



【分科会「クラブの現状と課題～みんなに話そう、失敗談～」について】

設立年数別に4つの分科会に分かれ、事例発表で問題提起された内容も含め、クラブが抱える現状や運営上の課題について意見交換した。

分科会A：設立準備委員会～設立3年目のクラブ

分科会B：設立4年目～7年目のクラブ

分科会C：設立8年目～設立10年目のクラブ

分科会D：設立11年目以上

分科会では、「クラブ運営をするための適切な会費設定」「会員のニーズに合ったプログラム」「スタッフの確保」等、失敗事例を含めた活発な発言があった。また、自立に向かっている課題である「自主財源をどう作るか」「今後の事業内容の方向性」「行政との関係性」「市町村体協との協働」「指定管理の問題」「人材確保の問題」等、討議があった。設立年数が同程度のクラブ同士の集まりだからこそ、共通意識を持つことができる討論も多く、他クラブの取り組み事例から問題解決への糸口を見つける機会となった。



[2日目]

【グループディスカッション「地域にあるもの再発見！事業推進のヒント！」について】

活動エリア人口別に4つのグループに分かれ、地域資源を活かした事業をどう推進していくか、地域クラブとし現状と課題について徹底討論を行い、問題解決への糸口を探り、情報の共有を図った。

グループA：人口5千人未満のクラブ

グループB：人口5千人～3万人のクラブ

グループC：人口3万人～人口5万人のクラブ

グループD：人口5万人以上のクラブ

グループディスカッションでは、「地域の企業、事業所との連携」「地域間クラブの交流」「学校との交流事業」「地域の人材活用」等について失敗事例を含めた発言があり、地域にあるものと協働して事業を行うことによりお互いにwin-winの関係を構築して地域を盛り上げることが、クラブ運営にも好循環をもたらす要因になれるのではとの認識を持った。

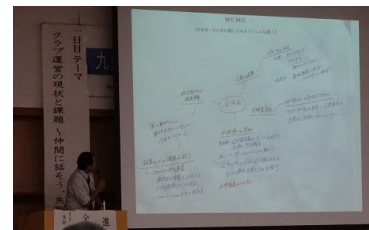
また、人口規模によるクラブの課題に多少の差があるが問題解決への糸口となれるような討議となった。



【全体会「みんなに話してみよう！こんな話」について】

全体会では、2日間で「今までに発言がなかったけど話したい！」「是非これだけは聞きたい！」を自由な発言形式で行い、クラブで抱えている諸問題の解消を図るためのヒントを得て、クラブの質的な充実を図れるよう情報共有を行った。

情報提供として「中学校部活動の中体連参加のしくみ」「国の総合型クラブへ取組状況」など活発な発言があった。総合型クラブの育成から20年経つなかでクラブの意義や育成・支援のあり方についても意見や質問が寄せられ、参加しているクラブ運営関係者だけでなく、クラブアドバイザー、都道府県体育協会担当者も共通理解を深めることができる話題が提供されることは、参加者の一体感だけでなく、よりクラブの役割や必要性を認識することに繋がった。



【まとめ】

今回のクラブネットワークアクションを通じて、九州ブロックにおけるクラブ運営等に関する情報を多く共有することができたことで更なる質的な充実につながる情報交換の場になったと思う。また、クラブへの想いが人から人へ熱く伝わり、ネットワークの重要性を強く感じる機会となった。



九州ブロッククラブネットワークアクション2015
実行委員長 山口 正